

2020. 7. 12の荒浜海岸植林地調査記録

仲村得喜秀

1. 植林木について

① ヤマハンノキ、オオバヤシャブシ、ハンノキ (パイオニアプラント)

ヤマハンノキについては、2020年の末頃までに2mにはなしてほしいと思っていたので、ほぼそれは達成されそうである。オオバヤシャブシとハンノキも順調に伸びているのでパイオニアプラントについては、全く問題はないと思われる。

② ケヤキ

成長についてはほとんどはマイナスとなっている。しかし、多くのものは活着はしており、中には根元から萌芽しているものも見受けられる。今後は個別にそのまま伸ばすか、幹切りをして萌芽させるか判断していきたい。

③ ウワミズザクラ、カスミザクラ、コナラ、イタヤカエデ

いずれもほぼマイナス成長となっている。これ等も、ケヤキと同様、幹切りをして萌芽させる方法を取りたいと思っている。

④ アカシデ、イヌシデ

イヌシデは思っていた以上に樹勢が良く、今のままの状況を見守っていきたい。アカシデはその逆で、悪いので幹切りをする予定である。

⑤ ミズキ

この木も、今のままの状況を見守って行きたいと思っている。

⑥ シロヤナギ

挿し木苗の小さいものを植えたので、今は成長できていないがこれから伸びてくれるものと思っている。(自然に入ってきたシロヤナギの成長は非常に良い)。

⑦ ブナ

2019年12月に見たときには今にも枯れそうであったが、下部の枝が生きており、もしかしたら持ち直すかも知れない。

⑧ アベマキ

アベマキは昨年12月の植林なので今年は活着しただけでいいと思う。樹勢は悪くないので、来年以降は伸びてくれそうである。

2. 草本類について

昨年目立っていたのは、ヤハズソウ、ウマゴヤシの仲間、ツルマメ等であったが、ツルマメ、ヤハズソウは昨年ほどの勢いはなくなってきた。前記の3種はいずれも地表面を這うような丈の低い草本である。今回目立ったのは、伸びれば1mを越えるヒメムカシヨモギ、ホッスガヤ、マツヨイグサの仲間などである。残念ながらススキはまだ目立つ程にはなっていなかった。しかし、草本類の遷移が確実に進んでいる事はまちがいない。

3. 他の生物について

木の葉を食べるマイマイガの幼虫（毛虫）が、ヤマハンノキの葉を集団で食害していた。白石市との共有地では、1本の木を丸裸にしたりはしているが、ここでは今のところ大量発生は見られない。他にも名前のわからない毛虫1種、カナブン、テントウムシ等が確認された。アリについてはもう来ているかもしれないが、ミミズはまだいないものと思われる。イラガの幼虫はいたはずであるが、無理に確認はしなかった。

4. 所感

一言で言えば、植林木が枯死する時期がクリアできた事にホッとしている。12月の作業は何をすればいいかも、植林木が教えてくれている。パイオニアプラント以外の樹種は、葉の大きさも小さいし色も悪いので、まだ死んだふりの状態である。それでも枯死はほとんど見られないし、幹枯れを起こしているものも根元から萌芽したりもしているので、植林後1年7カ月にしては、とてもいい状態だといえる。ヤマハンノキは予想通り先に伸びて防風帯となってくれている。来年以降は、根粒菌による肥料木効果も少しずつ出てくるものと思われる。枝打ちも必要になってくるはずである。思った以上に元気なのがアベマキである。まだ本来の葉の大きさではないが、色は良い。他の広葉樹とは一線を画す状態である。やはり海岸には強い木のようなだ。

ミツデカエデとイヌザクラは、いまだ行方不明である。